



大 衡 村 教 育 委 員 会  
点 検 ・ 評 価 報 告 書

(令和4年度対象)

令和5年10月

大衡村教育委員会

# 教育委員会に関する点検・評価報告書

(令和4年度対象)

## 目 次

I	はじめに	1
1	点検評価の趣旨	
2	点検評価の対象及び方法	
II	教育委員会事務の概要	2
1	教育基本方針	
2	教育重点施策	
III	教育委員会の活動状況	4
IV	教育重点施策等の点検・評価	7
1	学校教育の充実	7
(1)	小学校	7
(2)	中学校	11
(3)	学校給食	13
(4)	おおひら子どもの心のケアハウス「ききょうルーム」	14
2	生涯学習の推進	15
(1)	生涯学習推進基盤の充実	15
(2)	社会教育の充実	16
(3)	魅力ある地域文化の醸成	23
(4)	生涯スポーツの充実	27
V	点検評価に対する学識経験者の意見	30

## I はじめに

### 1 点検評価の趣旨

教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実等を図るべく「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され（平成20年4月1日施行）、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表すべきものである。

このため、本村教育委員会では、法律の趣旨に則り、教育行政の推進に資するとともに、住民の皆様への教育行政サービスの質の向上と効率化を図るため、教育委員会に関する事務の点検・評価を実施し、報告書としてまとめた。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 点検評価の対象及び方法

教育委員会では、「大衡村教育基本方針」を定めており、その年度に重点的に取り組むべき各種の教育行政施策を定めている。令和4年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象として、その主な取り組み状況の結果についてまとめ、学識経験者の意見をいただき、点検及び評価を実施したものである。

## II 教育委員会事務の概要

### 1 令和4年度教育基本方針

村民一人ひとりが希望をいただき 健康で豊かな人間の育成と 魅力ある  
「万葉の里おおひら」をめざし  
豊かな感性と たくましさ おもいやりを培う学校  
集い 学び 活力に満ちた地域社会  
かおり高い地域文化の創造と継承  
楽しさと活力あるスポーツの推進  
を重点に村民の生涯にわたる学習の充実に努める。

### 2 令和4年度教育重点施策

#### (1) 生涯学習推進基盤の充実

- ①生涯学習推進体制の充実
- ②生涯学習にかかる情報提供と学習機会の拡充
- ③生涯学習拠点施設の整備
- ④生涯学習支援者の育成
- ⑤学校、家庭、地域及び関係機関の協働

#### (2) 学校教育の充実

- ①心豊かな児童・生徒の育成と特色ある学校づくりの推進
- ②基礎基本の定着を図る学習指導の推進
- ③家庭や地域との協働した教育活動の推進
- ④教職員の資質及び指導力の向上
- ⑤教育施設等の整備充実

#### (3) 社会教育の充実

- ①社会教育の推進体制の充実強化
- ②ライフステージに応じた学習、事業の充実
- ③家庭や地域の教育力の向上
- ④青少年健全育成とボランティア活動の推進
- ⑤児童・生徒の週末活動について、家庭や地域と連携した適切な指導や支援体制の確立
- ⑥社会教育施設の整備充実
- ⑦大衡城青少年交流館の有効活用の推進
- ⑧大衡村ふるさと美術館の効果的運営

(4) 魅力ある地域文化の醸成

- ①芸術文化活動の推進
- ②文化財の保存・保護と活用の推進
- ③大衡村ふるさと美術館の効果的運用の推進
- ④大瓜神楽, 万葉おどり, 大衡悠神太鼓の普及継承
- ⑤芸術文化鑑賞の機会の拡充

(5) 生涯スポーツの充実

- ①スポーツに対する実践意識の高揚・啓発
- ②ライフステージに応じたスポーツ活動の奨励
- ③自主的スポーツクラブ・団体の育成と指導
- ④体育施設の整備充実

### Ⅲ 教育委員会の活動状況

教育委員会では、毎年、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。令和4年度の教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

学校においては令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のため、衛生管理マニュアルに基づいた予防の徹底を図り、感染対策を講じながらの生活となり、各種行事については内容の見直しや工夫をしながらの実施となった。

教育委員会においては、「確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童生徒」の育成を目指し、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒を対象とした公営「大衡塾」を開設した。前年度の課題を踏まえ、令和4年度は短期集中開催及び少人数指導を取り入れたことから、100名を超える児童生徒の参加があった。また、学習内容の定着状況も高い傾向が見られた。引き続き、令和5年度においても実施形態等の改善と工夫を図りながら「大衡塾」が充実した学習の機会となるように努めていきたい。

また、平成27年度から発足した村総合教育会議等の場を通じ、村長部局とも連携を密にし、自立性、独自性を発揮し、『開かれた教育行政』を目指し、会議の公開など教育委員会会議の透明性を維持するとともに、教育委員一人ひとりの資質向上に向けた研修の充実を図っていきたい。

#### 1 教育委員（令和4年度在籍者）

職名	氏名 (就任年月日)	任期
教育長	齋藤 浩 (令和3年10月1日就任)	令和3年10月1日～令和6年9月30日
教育長職務代行	渡邊 勇 (平成24年10月1日就任)	令和4年10月1日～令和8年9月30日
委員	齋藤 さと子 (平成25年10月1日就任)	平成3年10月1日～令和7年9月30日
委員	文屋 栄悦 (令和2年6月12日就任)	令和2年6月12日～令和6年6月11日
委員	佐竹 由加 (令和2年8月9日就任)	令和2年8月9日～令和6年8月8日

## 2 教育委員会活動 (R4)

項 目	回 数	活 動 内 容
教育委員会会議の開催	14 回	定例会及び臨時会の開催 定例会 12 回, 臨時会 2 回 ※傍聴者なし
会議の議事録の公開, 広報・活動の状況	0 件	議事録の公開請求 なし
村総合教育会議	1 回	・長期欠席・いじめ等の状況について ・部活動地域移行について
研修会等への参加状況	4 回	・市町村等教育委員会教育長・総務担当課長会議 ・宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会
学校・所管施設訪問等	50 回	・小・中学校入学式・卒業式 ・指導主事学校訪問 ・教育委員会との連携による学校サポート事業 ・公民館行事 ・ふるさと美術館企画展 ・心のケアハウス・多目的施設図書室訪問 ・小・中学校授業参観

## 3 会議の開催状況 (R4)

区 分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	令和4年 4月 22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計 (令和3年度補正予算)</li> <li>・人事案件 (県費非常勤教職員)</li> <li>・人事案件 (教育委員会職員)</li> <li>・人事案件 (会計年度任用職員)</li> <li>・人事案件 (学校医, 学校歯科校医及び学校薬剤師)</li> <li>・人事案件 (公民館分館長)</li> <li>・人事案件 (大衡村スポーツ推進委員)</li> <li>・人事案件 (教育支援委員会委員)</li> <li>・教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大衡村立学校の修学旅行実施要領の一部を改正する要領</li> <li>・大衡村教育委員会職員安全衛生管理規定の一部を改正する規定</li> </ul>
定例会	令和4年5月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・人事案件（社会教育委員）</li> <li>・人事案件（学校開放運営委員会委員）</li> <li>・人事案件（会計年度任用職員）</li> <li>・人事案件（学校評議員）</li> </ul>
定例会	令和4年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> <li>・人事案件（会計年度任用職員）</li> <li>・準要保護児童生徒就学援助費の認定</li> </ul>
臨時会	令和4年7月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5度使用教科用図書の採択計画の承認</li> </ul>
定例会	令和4年7月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・令和5度使用教科用図書の採択</li> <li>・人事案件（文化財保護審議会委員）</li> <li>・人事案件（大衡村ふるさと美術館運営委員会委員）</li> </ul>
定例会	令和4年8月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育委員会点検・評価報告書</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> </ul>
定例会	令和4年9月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> <li>・教育費決算認定（令和3度決算）</li> <li>・人事案件（いじめ問題対策連絡協議会委員）</li> <li>・人事案件（いじめ問題調査委員会委員）</li> </ul>
定例会	令和4年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・人事案件（教育長職務代行者）</li> <li>・特別支援学校・支援学級への就学指導</li> </ul>
定例会	令和4年11月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> </ul>
定例会	令和4年12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> </ul>



定例会	令和5年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・人事案件（大衡村教育委員会職員）</li> <li>・教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則</li> </ul>
臨時会	令和5年2月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県費負担教職員（管理職）の異動承認</li> </ul>
定例会	令和5年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> <li>・人事案件（大衡村教育委員会職員）</li> </ul>
定例会	令和5年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長一般事務報告</li> <li>・教育費一般会計（令和4年度補正予算）</li> <li>・教育費一般会計予算（令和5年度）</li> <li>・大衡村教育基本方針（令和5年度）</li> <li>・人事案件（教育委員会会計年度任用職員）</li> <li>・スクールバスの設置及び管理に関する規定の一部を改正する規定について</li> </ul>

#### IV 教育重点施策等の点検・評価

##### 1 学校教育の充実

###### (1) 小学校

###### ①基礎・基本の定着を図る学習指導の推進 …校内研究より…

事象の理解や新たな価値を生み出すための思考力や判断力、表現力等の育成において、言語能力は大きな役割をもっている。その力を伸ばすことが社会の担い手となる児童にとって必要不可欠なものである。さらに基礎・基本の知識や技能の理解を促し、定着させるものであると考え、これまで本校では説明的文章の読解力の向上を目指し、3年計画で校内研究に取り組み、次のイ～ハの3つ成果を上げてきた。

イ) サイドラインを引くことで、作者の主張や具体例の理解につなげることができた。

ロ) 字数を決め、書く活動を行ったことで、字数を意識しながら文章を書くようになるようになった。

ハ) 辞書や語彙短冊の活用により、語彙の定着を図ることができた。

令和4年度は、これらの成果を生かし課題を解決するために、指導の継続と改善に取り組み、さらに読解力の向上を図った。

研究主題はこれまでと変えずに、研究副主題は新たに設定した。

【研究主題】言葉に関心を持ち、確かな読解力を身に付けた児童の育成  
【研究副題】自分の思いや考えを伝え合う文学的な文章の授業づくりを通して

研究目標はこれまでと変えずにそのまま設定した。

**【研究目標】**

文学的な文章を扱った単元において、自分の思いや考えを伝え合う授業づくりを通して、言葉に関心を持ち、確かな読解力を身に付けた児童を育成する。

さらに研究を推進する3つの視点と手立ては、次のとおりである。

**【視点1】 読解力を身に付ける授業づくり**

■ 手立て

- ・出来事や心情などの関係性をつかむ授業構成
- ・伝え合ったことを基に、自分の思いや考えを検討したり振り返ったりする時間の設定

**【視点2】 自分の思いや考えを伝えるための書く活動の工夫**

■ 手立て

- ・読み取ったことを基に自分の思いや考えを書く活動の設定
- ・自分の思いや考えを書く技能を高める取組

**【視点3】 書くことを支える語彙や文字の理解を広げる活動の工夫**

■ 手立て

- ・宿題での取組
- ・モジュールでの取組
- ・授業内での取組
- ・家庭との連携した取組
- ・他教科との連携した取組

また、これらの研究を支える、次のA～Eによって学習指導の充実を図った。

- A) 子供一人一人の学習達成状況の適切な評価に努め、指導法の改善に生かす。
- B) 「授業のスタンダード」の徹底を図るとともに、校内研究の中核とし、日々の授業改善を行い、学力向上に努める。
- C) 業間にモジュール（15分）を設定し、補充的・発展的な学習を行う。
- D) 家庭での学習習慣の定着（宿題の工夫、自由勉強の仕方の理解と定着）を図る。
- E) ICT（デジタル教科書、タブレット）を有効活用し、学習への興味・関心を高める授業づくりに努める。

以上のことから、令和4年度の《 成果 》と《 課題 》については、次のとおりである。

《 成果 》

- サイドラインを引くことで、作者の主張や具体例の理解につなげるこ

とができただけでなく、それを手掛かりに心情などもつかむことができた。さらに、場面ごとの出来事をまとめた掲示や心情曲線により、変化やつながりがつかめるようになり、特に物語文などでは深く味わい、その世界観を理解することができる児童が増えてきた。

- 字数を決め、書く活動を行ったことで、字数を意識しながら文章を書くようになる様子が見られるようになるとともに、学年により、作文を宿題に取り入れるなど、実態に応じた取組があったことで、課題に沿って文章で書くことに慣れ、自分の考えや気持ちを言葉で表現することに苦手意識を持つ児童が減ってきた。
- 辞書や語彙短冊の活用により語彙の定着を図ることができ、3年生以上では意味調べを意図的に行うことで、言葉の意味を理解し、イメージを広げられたことから場面や心情の理解が深められた。低学年では動作化などにより、語句の意味を理解させることができた。

#### 《 課題 》

- サイドラインを引くべき箇所はどこかなど、要点に絞ってサイドラインを引くことができるようになるためには、何を捉えさせたいかを明確にして、発問や場面分けなども含めた指導計画を立てること、また、継続した指導と取組をすることが必要である。
- 語句の意味理解は進んだものの、その語句を会話や作文などにまだ活用できていない児童が多く、定着を図り、日常的に使えるように活用を意識した学習課題や学習場面（モジュール）などが必要である。
- 書くことにおいて、「〇〇文字で」「3文で」「相手に応じて」などの条件を与えるなど、様々な書き方や書く技術を身に付けさせていくことで、一層自分の考えや気持ちを言葉にする表現する力を高め、様々な教科や学習場面で活用させることや伝え合うことなど、生きた学びへとレベルアップを図ることが必要である。
- 授業の中で書いたことを伝える場面を設定するだけでなく、漢字を書く、文章を書くなどを低学年から自主学習へ取り入れ、書くこと、言葉で表現すること、伝え合うことを習慣化し、定着と活用を図ることが必要である。

## ②教員の資質及び指導力の向上

- ◇ 学年部での協働による授業づくりや研究授業，全校での研究授業を通して，児童の実態に応じた授業改善，教科指導力の向上を図る取組から
  - ・授業改善においては，事前授業や事後授業，事後検討会などを実施し，PDCAサイクルで取り組んだ。
  - ・日々の授業づくりにおいては，OODAループ（児童の観察や情報収集→児童の実態把握や状況判断→指導計画や指導案の作成等→学習指導や授業実践）を主軸に，柔軟にかつ臨機応変に取り組んだ。
  - ・PDCAサイクルとOODAループの連携を図り，常に実態把握から指導計画を練り，授業実践をするなどの授業改善を繰り返して，指導力の向上を目指すことができた。
- ◇ ICT機器を有効活用し，学習への興味関心を高める授業づくりに努める取組から
  - ・一人一台のタブレット端末の活用により，児童の学ぶ手立ての多様化や効率化を推進することができた。また，写真や動画などの資料を効果的に活用でき，文章の内容理解に役立った。
  - ・デジタル教科書やICT機器を活用した指導の実践だけでなく，研修を行い，互いの活用方法の共有をするなど，指導力の向上を図った。

## ③加配教員，学習支援員等の成果

- ◇ 特別な支援を要する児童に対する指導の工夫
  - ・学級担任，特別支援教育コーディネーター，少人数指導担当（村費講師配置1名）の連携により，個別に支援を必要とする児童の実態に応じた指導を行うことで，学力向上を図ることができた。
  - ・ことばの教室通級指導において言葉に課題のある児童に構音指導を行うことで，正しい発音で音読や会話ができるようになるなど，改善とともに児童の対話をする際の自信の向上が図られた。
  - ・LD等通級指導において，児童に適した学習の仕方や教材の活用によって学習の困難さや苦手意識などの軽減を図るとともに，学習の意欲の向上や学校生活態度の改善が見られた。
  - ・村費の学習支援員が1年生では学級に1人ずつ，2～6年生では学年に1人ずつ，それぞれ配置されることにより，授業や様々な活動において個別の支援が必要な児童に対して，支援を行うことができた。
  - ・英語担当教員とALTの連携により，よりネイティブな英語に触れたり他国の文化への興味関心が高まったりした。

## (2) 中学校

### ①「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成」

3年計画の初年度として、「見通しと振り返りの場面を取り入れた工夫を通して」を副主題として、基礎・基本の確実な定着を図りながら、身に付けた基礎・基本を土台として、主体的に学習活動に取り組む生徒の育成を目指した。

さらに、1単位時間の中に、生徒同士が、様々な形態での対話を通して学び合う場面を、意図的、計画的、継続的に設定した。また、本時の課題「めあて」を明示し、振り返りの時間を充実させることにより、次の活動へ課題意識を高められることを目指した。

さらに、課題意識の高まりが主体的な学習を支え、継続した主体的学習が確かな学力の確実な定着へと結びついていくことを目指した。

具体として以下の5つの項目を実践し、それぞれの成果と課題を明確にすることにより令和4年度の取組を評価した。

### (ア) 授業の目標、ねらいの明確化

#### 【成果】

すべての教室に「目標」「課題」「まとめ」「振り返り」のラミネートシートを配置し、板書に活用することで、生徒が授業の目標、課題等をつかみやすいようにした。また、既習事項や家庭学習課題とのつながりを意識した授業を実践することにより、目的意識を持って予習、復習に取り組む生徒が見られるようになった。さらに、教室に大型テレビが導入されたことでChromebook等のICT機器を積極的に活用しながら、本時目標の達成につなげることができる環境となった。

#### 【課題】

学習アンケートの結果から、授業のねらいや目標はつかめているが、授業が終わるときに何が理解できたのか、どのくらい理解していれば目標が達成できたといえるのか生徒が自己評価できていないという課題が残った。

### (イ) 学習内容を振り返る場面の設定

#### 【成果】

生徒が「分かった」「できた」「これを復習したい」と感じられる「振り返り」のために、1単位時間の終末の段階で、単元末での振り返りの活動を意識した活動を実践できた。

#### 【課題】

単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を設定し、年間指導計画に位置

付けるとともに、効果的な振り返りの場面設定や発問の工夫が必要である。

#### (ウ) 家庭学習へとつなげる授業展開

##### 【成果】

今年度からは、家庭学習ノートだけではなく、各家庭で購入した問題集などの提出を認めた。教員が添削して家庭学習に関するアドバイスなどを記入して返却することにより、以前より家庭学習に主体的に取り組む様子が見られた。問題集などの提出も認めたことにより、「提出しやすくなった」という生徒の声も多数聞かれた。また、提出率も増加した。

##### 【課題】

家庭学習の内容に課題を抱える生徒に対する指導について、効果的な声掛けなどの工夫とその共有が課題である。

#### (エ) 朝読書の実施

##### 【成果】

「基礎・基本を身に付けるためには、言葉を学び、表現力を高め、創造力を豊かにする」必要があると考え、年間を通して朝読書活動に取り組んだ。朝の10分間、静かに読書に取り組む活動を通して、日本語の理解、表現力の向上が図られたと感じる。また、本活動が、落ち着いた1日を過ごすための最初の活動として適切であると感じた。

##### 【課題】

当初、静かに図書に向かわせることを重視したために、読んでいる本の内容については検討できなかった。次年度は、図書館教育担当とも連携しながら、生徒の選択する図書についても考える必要がある。

#### (オ) 授業力向上のための研修

##### 【成果】

協働による授業づくりの実践により指導過程の効果的な組み立て、ICT機器の効果的な活用方法、学習と評価の一体化、効果的なペア学習・グループ学習のさせ方などについて、教科の枠を超えて多様な意見交換が実施できた。

##### 【課題】

本年度は、指導主事訪問に向けた2つの研究授業づくりが全教員の学びの場となった。今後は、教員による相互授業参観期間を工夫して設定するなど、日常的に授業を参観し合い意見交換ができるような仕組みを構築する必要がある。

ある。また、個別最適な学びのための、ICT機器活用研修会を企画することも必要である。

### ②小・中学校が連携して取り組む学力向上

中学校の理科教員が小学校に出向き、小学校の教員と連携して理科の授業を行った。小学校からは、研修を通して理科の授業、特に観察・実験のさせ方について研修を深められたという評価を得ることができた。

### ③村費非常勤講師，外国語指導助手（ALT），学習支援員の成果

#### （ア）村費の常勤講師（美術）に見られた成果

専門的な知識と技能を有する教科担任の指導が、生徒の興味・関心の喚起につながり、美術科の学ぶ意欲の（学力）向上につながった。また、本教員は美術部の活動でも専門的な知識・技能を発揮しており、部員の表現力を向上させている。本講師の配置が本校生徒の豊かな心の醸成に大きく貢献している。

#### （イ）外国語指導助手（ALT）に見られた成果

ALTの配置がネイティブな英語の発音や表現に触れる機会を拡大させることにつながった。ALTが生徒に積極的にかかわっており、外国の文化や暮らしを紹介する掲示物を作成し掲示する活動は生徒の国際理解の深まりにもつながっている。

#### （ウ）学習支援員に見られた成果

学習支援員が支援を必要とする生徒に対して、寄り添い、丁寧に支援しているため、生徒が「分かった」「できた」と感じる活動が展開できている。

令和4年度は3名の学習支援員が効果的に対応し、より丁寧な支援を行うことができた。生徒の保護者からも評価されている。

### （3）学校給食

#### ①令和4年度給食実施状況（令和5年3月末）

	小学校	中学校	合計
給食回数	178回	178回	—
給食人数	388人	169人	557人

## ②給食費減免状況

給食の一食当たりの単価は小学生が280円、中学生が330円となっている。減免割合については、平成30年度まで第一子が10%・第二子が40%・第三子が80%・第四子が100%の免除を行ってきたが、平成31年4月1日からは、全児童生徒の給食費を全額免除している。

## ③食育に関する取組

学校給食に使用する食材は、「地産地消」の考えから、地場産品を優先的に活用している。令和4年度の米・野菜・果物の地場産品使用割合（購入金額）については、全体の40.4%であった。今後もできるだけ村内産の食材を使用し、安心・安全な給食の提供に努めていく。

「すくすくみやぎっ子 みやぎのふるさと食材月間」や「全国学校給食週間」の一環として、児童生徒と村内の野菜生産農家との交流給食会を実施してきたが、コロナ禍にあり、令和4年度も新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止とした。年々給食に使用する野菜等の生産者が減少しており、交流給食会へ参加する方も限られているが、今後も食育の一環として継続して実施していきたい。

給食の残食については、小学校は前年度より減少し、中学校はやや増加した。引き続き、年間を通した食育指導を実施し、残食の減少に努めていく。

## ④施設の整備

給食センターは、昭和53年11月に竣工され、建設から44年が経過し、建物や設備の老朽化が進行している。現在はウエット調理方式の施設をドライ運用しており、今後はドライ調理方式の施設整備が求められている。これを踏まえ、現在建築工事を進めており、令和5年度を目標に新施設での給食提供を行う予定である。

## (4) おおひら子どもの心のケアハウス「ききょうルーム」

おおひら子どもの心のケアハウス（「ききょうルーム」）は、令和2年4月1日設置、10月1日の開所以来、子どもたちの「社会的自立」を目指して、大衡小・中学校の児童生徒へ安心できる居場所の提供や学習サポート等に努めている。

また、学校の長期休業期間中には、スクールカウンセラーによる相談活動も実施することができた。

### ①ケアハウスの支援内容について

- ・通所支援…学校に登校できない児童生徒の支援  
教育相談、自立支援、学習支援



- ・学校支援…教室には入れないで別室登校等をしている児童生徒への支援  
学習支援，教育相談
- ・家庭支援…家庭に閉じこもりがちな児童生徒や保護者への支援  
教育相談，必要に応じて学習支援

## ②ケアハウスの三機能について

- ・教育相談窓口としての「心のサポート機能」
- ・社会的自立支援としての「適応サポート機能」
- ・学習支援としての「学びサポート機能」

## ③運営方針について

- ・児童生徒が，自分の存在価値を見いだし，他と協力し合って活動しようとする心を育む。
- ・社会の一員としての自覚を持ち，よりよく生きようとする力を育む。
- ・児童生徒・保護者が，自ら考え判断できるよう必要な支援を行う。

## ④令和4年度の開所日数，支援日数について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	15	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	238
通所支援	9	12	8	4	1	3	14	14	16	12	11	0	104
小学校支援	0	0	14	11	8	18	16	18	13	11	13	0	122
中学校支援	2	14	11	6	1	5	8	10	11	7	9	0	84

## 2 生涯学習の推進

### (1) 生涯学習推進基盤の充実

#### ①生涯学習推進体制の充実

生涯学習連絡調整会議を開催し，村・教育委員会・学校等で年間スケジュールの取りまとめを行い，生涯学習カレンダーを2，300部作成し，村内全世帯等に配布した。

変更点としては，レイアウトを若干変更し，見やすく改良を行った。生涯学習の推進のため，村・教育委員会・関係機関等と年間スケジュールの調整と確認を行った。今後は，事務事業の点検・評価を行い，行事の実施の可否や統合も含めて検討する会議になるよう進めたい。

また，『おおひらまなびい出前講座』については，毎年カレンダー最終ページに

掲載しているが、年間の申し込みは衡下老人クラブから1件あり、「高齢者福祉サービスについて」の講座を行った。今後も広報紙等で積極的にPRし活用を促したい。

### ②生涯学習情報提供と学習機会の推進

多様化する村民の学習ニーズに応え、趣味や教養等の教室・講座を開設し（実績は別掲）、生涯を通じた学習の支援を行った。また、ここ数年来の課題として、受講者の固定化傾向が見られることから、令和4年2月にアンケート調査を行い、住民ニーズの把握を行った。今後も施設の利用者の意見や要望なども踏まえた魅力のある講座や家庭の教育力の充実に努めたい。

さらに、今後も受講者による教室・講座の自主的な活動を進めるとともに、サークル化を図り、学習活動機会の継続や拡大を促し、趣味の作品展をはじめとする学習成果の発表の場の確保、学習の成果を生かすことのできる環境づくりに努めたい。

### ③生涯学習拠点施設の整備

生涯学習拠点施設である万葉研修センター（大衡村公民館）については、適正な維持管理に努め、利用者の利便性に寄与した。

### ④家庭教育支援者の育成

県主催の子育てサポーターリーダー養成講座を7名が受講し、現在10名で家庭教育支援チーム「むらっこ」が活動しており、健康福祉課事業（ベビーのゆったりタイム）とタイアップして子育て支援を進めている。

### ⑤学校、家庭、地域及び関係機関の協働

小学校・中学校並びに児童生徒の家庭との連携を図り、協働で生涯学習事業（ミシン縫いの授業で指導）を実施した。

## （2）社会教育の充実

### ①社会教育の推進体制の充実強化

#### （ア）社会教育委員活動

期 日	内 容
令和4年5月13日	大衡村社会教育委員会議
令和4年5月25日	黒川郡町村社会教育委員連絡協議会総会・研修会/会場： 大和町まほろばホール

令和4年6月8日	仙台管内社会教育委員連絡協議会総会・研修会/コロナウイルス感染症拡大防止のため中止/書面決議
令和4年6月10日	宮城県社会教育委員連絡協議会代議員会・研修会/会場：松島町中央公民館欠席
令和4年9月9日	宮城県社会教育委員連絡協議会研修会・表彰式/会場：宮城県庁欠席
令和4年10月25日	仙台管内社会教育委員連絡協議会理事視察研修会/会場：亘理町中央公民館
令和4年12月16日	大衡村社会教育委員会議/施設利用者アンケートの結果と大衡城青少年交流館の今後の在り方について
令和5年2月17日	大衡村社会教育委員会議/大衡城青少年交流館の今後の在り方について
令和5年3月23日	黒川郡社会教育セミナー/会場大郷町文化会館

社会教育委員を任命し、会議を開催することにより村の社会教育と大衡城青少年交流館の今後の在り方について意見を伺った。交流館については、老朽化により危険が及ばないように取り壊したほうが良いとの意見であった。

(イ) 分館長活動

期 日	内 容
令和4年4月26日	第1回分館長会議 ・令和4年度事業計画について
令和4年6月19日	村民スポーツ・レクリエーション大会/7地区参加 優勝：衡中地区 準優勝：奥田地区 第3位ときわ台地区
令和4年7月11日	第2回分館長会議 ・村民体育大会について
令和4年9月4日	村民体育大会/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
令和5年1月28日	黒川地域公民館分館長・公民館協力員大会/会場：大郷町文化会館

村民体育大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になった。

②ライフステージに応じた学習，事業の充実

(ア) 大衡カレッジ

期 日	内 容	受講人数
令和4年7月13日	リラクゼーションヨガ講座	10人 託児2名
令和4年8月8日	体幹を鍛えて転ばない体 椅子筋トレ①	6人
令和4年8月29日	体幹を鍛えて転ばない体 椅子筋トレ②	7人
令和4年10月12日	チビ椅子作り	10人 託児2名
令和4年11月17日	フライパン1つで簡単パン教室	7人
令和4年12月14日	クリスマスリースづくり	7人

(イ) 植木剪定講座

期 日	内 容	受講人数
令和4年7月7日	講話「植木の剪定について」 実技「ツツジ，サツキ，モミジ他の剪定」	8人
令和4年8月4日	実技「ツバキ，ツゲ他の剪定」	7人
令和4年10月6日	実技「マツ他の剪定」	5人
令和4年10月27日	実技「チャボヒバ，カイズカイブキ他の剪定」	6人

(ウ) 健康マージャン講座

期 日	内 容	受講人数
令和4年7月20日	楽しみながら覚える健康マージャン①	7人
令和4年8月3日	楽しみながら覚える健康マージャン②	6人
令和4年8月17日	楽しみながら覚える健康マージャン③	6人
令和4年9月7日	楽しみながら覚える健康マージャン④	5人
令和4年9月21日	健康マージャン大会	5人

(エ) お茶っこ会

期 日	内 容	受講人数
令和4年4月～ 令和5年3月	月1回第2火曜日	15人

植木剪定講座については、身近な比較的関心のある講座として15年以上継続している講座であるが15年を節目に目的達成としたい。

また、大衡カレッジについては、令和2年度まで「おやじ倶楽部」と「レディーススクール」として講座を行っていたが一つにまとめ、毎回異なるバラエティに富んだタイムリーな内容の講座として企画し開催した。

今後も、アンケート調査等を実施し、内容の工夫と充実、精査を行い、ニーズの把握や社会の情勢等を踏まえながら実施していくこととする。

(オ) 子ども会リーダー研修会

期 日	内 容	対象者	参加人数
令和4年12月24日	レクリエーションゲームを楽しもう！/J・LCあかまつ 空き缶ランタンを作ろう！/県 松島自然の家出前講座	6年生	6名

(カ) 富谷・黒川地区ジュニア・リーダー初級研修会

期 日	内 容	参加人数
令和4年6月25日	ジュニア・リーダーの役割や安全教育、子どもの理解、レクリエーション活動	0名

子どもたちを取り巻く環境やライフスタイルの多様化により、子ども会とジュニア・リーダーの存続や活動が厳しくなっている。

ジュニア・リーダーサークル「あかまつ」の会員は5名で、子ども会活動でリーダーとして活躍できる人材を育成するため、今後も子ども会リーダー研修会と富谷・黒川地区ジュニア・リーダー初級研修会の内容を充実し、ジュニア・リーダーの養成を行っていききたい。

(キ) 新年会/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

期 日	内 容	参加人数
令和5年1月6日	村民等が一堂に会し、新年を祝うもの。	—

(ク) 二十歳を祝う会

期 日	内 容	参加人数
令和5年1月8日	二十歳を迎え、新たな門出を祝うとともに、成人としての自覚を高める。	参加者57人 対象者88人

民法改正により、名称を「二十歳を祝う会」に変更し、これまでどおり二十歳を対象に実施した。会場は、中学校講堂から平林会館へ変更し、実行委員が企画するアトラクションは行わず、来賓の規模も縮小して実施した。

③家庭や地域の教育力の向上

(ア) 家庭教育/親子ふれあい講座

期 日	内 容	受講人数
令和4年6月20日	健康福祉課の「ベビーのゆったりタイム」時 わらべうたベビーマッサージ	2組

親子のふれあいの場を提供し、家庭教育の充実を図ることを目的に開催した。

(イ) 家庭教育/子育て支援講座

期 日	内 容	受講人数
令和4年10月14日	親子ふれあいわらべうた	4組5人子ども も4人/託児1 名
令和4年11月25日	宮城県版親の学びのプログラム「親のみ ちしるべ」「小さな社会へデビュー」 ～早寝・早起き・朝ごはん～	7人/子ども 6人
令和4年12月9日	クリスマスクッキング/新型コロナウイルス 感染拡大防止のため中止	—

子育て中の親を対象に、子育てからくるストレスや不安の軽減を図ることや望ましい子どもとの関わり方などについて学習の機会を提供した。

(ウ) 子どもの居場所づくり事業/新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により各地区で実施は無かった。

地域の大人と子どもが一体となり、心豊かな子どもを育む環境づくりをねらいに、地域の人々との世代間での交流を図る。

事業を実施する地区が無かったことから、PRや利用しやすい事業となるよう検討の上、引き続き実施していくこととしたい。

④青少年健全育成とボランティア活動の推進

団体名	参加団体等	備考
大衡村青少年育成村民会議	24会員	家庭の日絵画募集 啓発物資配付
大衡村子ども会育成連合会	地区育成会 16団体	令和4年11月5日 全体行事パークゴルフを楽しもう！/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 令和4年7月3日 大森プール清掃/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
すばらしい大衡を創る協議会	4地区 14行政区	令和4年6月5日 花いっぱい運動/規模縮小で実施 村民清掃活動2回 フラワーコンテスト ・最優秀賞/衡中東地区 ・優秀賞/松原地区 ・優良賞/ときわ台地区 ・みやぎ花のあるまちコンクール/審査員特別賞/衡中東地区
ジュニア・リーダーサークルあかまつ	5名	交流会・研修会への派遣 万葉まつり協力 ふるさとまつり出店

上記団体の事務局として、青少年の健全育成はもとより、地域における自主的活動の推進に努めた。

⑤児童・生徒の週末活動について、家庭や地域と連携した適切な指導や支援体制の確立

「家庭教育支援」・「地域活動支援」・「学校教育支援」・「放課後子ども教室」・4つの事業を柱とした『地域学校協働活動推進事業』として、家庭・地域・学校が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる活動を実施した。

具体的な取り組みとしては、学校教育支援として小学校家庭科での5～6年生にミシン縫いの指導を行った。

## ⑥社会教育施設の整備充実

### (ア) 社会教育施設の利用状況

施設名	利用日数	団体数	利用者数
万葉研修センター	302日	延べ603団体	延べ5,601人
平林会館	255日	延べ470団体	延べ8,622人

社会教育施設利用状況については、昨年度に比べ、万葉研修センターで利用日数が45日の増、利用者数として2,385人の増。平林会館では利用日数が32日の増、利用者数としては3,089人の増となっている。日数と利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための規制が緩和した影響がある。

今後も、利用しやすい施設となるよう利用者の意見を伺いながら進めていく。

### (イ) 多目的施設図書室の図書貸出

区分	延べ利用者数	貸出冊数	備考
図書室、学習室 令和3年4月12日 から移転オープン	1,702人	4,844冊	受入図書266冊 蔵書数10,535冊 廃棄数0冊

多目的施設図書室の利用者数は、前年に比べ458人減となり、貸出冊数は1,596冊減となった。今後も引き続きリクエスト等を募りながら読書ニーズに対応した図書の充実・整備を図っていきたい。

### (ウ) 図書の活用

期日	内容	対象者	贈呈者数
ファーストブック/ 年間	健康福祉課で実施している「こんにちは赤ちゃん訪問事業」で、アドバイスブックレットと図書室利用案内を配布する。	新生児と保護者	はじめまして絵本22人へ贈呈



期 日	内 容	対 象 者	贈呈者数
セカンドブック/ 年間	3歳を迎えた幼児に、家庭における読書習慣を身に付けることを目的として実施。健康福祉課で実施している3歳児健康診査時に絵本無料引換券を配付する。	3歳児と保護者	絵本無料引換券57人へ配布30人引換

こんにちは赤ちゃん訪問事業と3歳児健康診査時に合わせてアドバイスブックレット等の贈呈を行っている。本と触れ合う機会として健康福祉課やボランティア（おはなし会）の協力を得て今後も継続して実施していきたい。また、ボランティアの養成も同時に図っていく。

#### ⑦大衡城青少年交流館の有効活用の推進

施 設 名	利用日数	団 体 数	利用者数
大衡城青少年交流館	20日	8団体	565人

令和4年度から株式会社万葉まちづくりセンターの指定管理から村直営として運営を切り替え、平日の日中のみの利用としたため、利用日数は14日減少し、利用者も335人減少した。

また、老朽化も進んでいるため、適正な維持管理を行うとともに、本村における社会教育施設としての今後の「施設の在り方」を社会教育委員の方々へ意見を聞き検討した。委員の意見はP17のとおり、老朽化により危険が及ぼさないよう取り壊したほうが良いとの意見であった。

#### ⑧大衡村ふるさと美術館の効果的運営

美術館の効果的運営については、(3)魅力ある地域文化の醸成③大衡村ふるさと美術館の効果的運用の推進で記述する。

### (3) 魅力ある地域文化の醸成

#### ①芸術文化活動の推進

(ア) 子ども文化ふれあい事業（茶道教室）/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

期 日	内 容	参加人数
令和4年7月21日	お辞儀の仕方, 立ち方・座り方, お茶の頂き方, お菓子の頂き方	—
令和4年7月29日	割稽古 (盆略点前)	—
令和4年8月5日	割稽古 (盆略点前)	—
令和4年8月9日	盆略点前	—
令和4年8月11日	盆略点前	—

今後も、村の特色を生かした芸術文化体験活動を継続し、子どもたちの情操教育に努めていく。

#### (イ) 趣味の作品展

期 日	内 容	出品数
令和4年10月22日 ～10月23日	村民の手作りによる趣味の作品展	個人出展者60人 出展数111人 来館者304人

村民の創作活動の成果の発表の場として、個人の出展のみで作品展を開催した。今後は、団体の出展も含め、多くの方々に見てもらえる機会を提供したい。

## ②文化財の保存・保護と活用の推進

### (ア) 文化財保護審議会委員の活動

期 日	内 容
令和4年11月30日	第1回大衡村文化財保護審議会 ・令和4年度文化財保護管理指導対象地の現地調査について ボード仙台工場南遺跡, 彦右衛門橋南遺跡, 尾西A遺跡, 尾西B遺跡, 萱刈場C窯跡

### (イ) 指定文化財の保護

村指定の文化財は3件あり、そのうち無形民俗文化財としての大瓜神楽は、明治時代から大瓜地区に伝承されている、本村唯一の伝統郷土芸能であり、保存会が結成され伝承されている。近年、保存会メンバーの高齢化や新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で伝承活動ができず、いかに若年層へ継承を図っていくかが課題となっている。

また、大衡城址・須岐神社については、今後も継続して村指定文化財として

伝承・文化財保護に努めていく必要がある。

大森地区の法幢寺の榎の木については、天然記念物として村文化財保護審議会で審議し、村で指定したいと考えている。

### ③大衡村ふるさと美術館の効果的運用の推進

#### (ア) 企画展示

期 日	内 容	出展者数
平成4年4月 9日 ～5月 9日	美術館所蔵「日下常由」作品展	345人
令和4年5月18日 ～6月26日	「中島優理」作品展	314人
令和4年7月 9日 ～8月21日	「数本奈智子」絵画展	765人
令和4年9月10日 ～10月10日	日本の凧地域の凧（東北の凧）展	440人
令和4年10月30日 ～11月20日	東北生活文化大学美術科企画展	177人
令和4年11月27日 ～12月27日	児童生徒絵画コンクール展	応募18校 101点 468人
令和5年 1月 7日 ～ 2月 7日	「赤沼潔」現代工芸作品展	204人
令和5年 2月11日 ～ 3月 7日	スマホ大衡村百景展	応募39人 56点 179人
令和5年 3月15日 ～ 3月29日	宮城教育大学企画展「第5回杜の輪」展	149人
令和4年 7月10日	サマータイム森のコンサート/ジャズ(ピアノ, ベース)	22人
令和4年 7月11日	初夏のオカリナコンサート	22人
令和4年 8月28日	夏の夜のシャンソンコンサート/歌, ピアノ, アコーディオン	39人

令和4年11月27日	初冬の森のジャズコンサート/ギター, ベース	18人
令和4年12月18日	クリスマスジャズコンサート/サクソ, ピアノ, ベース	13人
年間入館者総数		3,484人

大衡村ふるさと美術館では、「菅野廉」常設展示の他、2階展示室において県内の作家による企画展を開催した。

今後も、指定管理者と連携しながらより多くの住民に足を運んでもらえるよう、様々な視点から企画展示を計画し、美術館の宣伝普及に努めていく。

#### (イ) 美術館運営委員会

区分	期日	内容
第1回	令和4年10月3日	令和3～4年度展示状況と入館者数について
第2回	令和5年1月5日	令和5年度以降の展示計画について

#### ④大瓜神楽、万葉おどりの普及継承

##### (ア) 万葉おどりの普及推進

期日	内容	対象者	参加人数
毎月第2・4水曜日	定例練習会(4月～3月)19回	一般	96人
令和4年8月20日	おおひら万葉おどりコンテスト/ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	小・中学生・ 一般	—
令和4年12月7日	小学校の総合的な学習の時間に 万葉おどりの体験	小学4年生	70名
5月～10月	児童館来館児童の練習会(12回) /新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	小学生	—

村の新たな創作踊りとしての万葉おどりの普及推進を図り、踊りの継承育成に努めた。

今後も、万葉おどり普及団体である「おおひら万葉おどりにききょう会」との連携を図り、万葉おどりの普及と愛好者の拡大に努める。(大瓜神楽は別掲)

⑤芸術文化鑑賞の機会の充実

(ア) 宮城県巡回小劇場

期日	内容	対象
令和4年9月26日	演劇公演 劇団あとむ「音楽劇あとむの時間はアンデルセン」	大衡小学校3～4年生

今後も、小中学生を対象に、薫り高い芸術文化を身近に鑑賞する機会を提供していきたい。

(4) 生涯スポーツの充実

①スポーツに対する実践意識の高揚・啓発

(ア) スポーツ大会の開催

期日	内容	参加人数
令和4年6月19日	村民スポーツ・レクリエーション大会/7地区参加/優勝：衡中地区，準優勝：奥田地区，第3位ときわ台地区	83人
令和4年9月4日	第68回村民体育大会/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	—
令和4年10月9日	第39回歩け走ろう大会/歩く3kmコース，走る5kmコース/スタンプラリーハイキングコースは，新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	58人
令和4年10月30日	第2回大衡村パークゴルフ交流会/教室生と村パークゴルフ協会会員との交流	26人
令和4年6月～3月	村民体育館一般開放/月1回	65人

(イ) スポーツ推進委員

期日	内容
令和4年4月24日	仙台管内スポーツ推進委員協議会総会
令和4年4月26日	第1回分館長・スポーツ推進委員合同会議 ・令和4年度事業計画について ・村民スポーツ・レクリエーション大会について ・村民体育大会について

令和4年5月13日	宮城県スポーツ推進委員協議会総会
令和4年6月19日	村民スポーツ・レクリエーション大会/7地区参加
令和4年7月11日	第2回分館長・スポーツ推進委員合同会議 ・村民スポーツ・レクリエーション大会の反省について ・村民体育大会について
令和4年9月4日	第68回村民体育大会/新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
令和4年10月9日	第39回歩け走ろう大会
令和5年1月24日	村スポーツ協会、村スポーツ推進委員合同会議 ・ニュースポーツ体験・交流会について
令和5年2月19日	ニュースポーツ体験・交流会

今後も、大会の統合や大会内容を検討しながら、スポーツ推進委員・分館長との連携のもと、村民の健康と体力増進を図っていく。さらには、地域づくりや地域内のコミュニケーションの意識の高揚につなげていく。

## ②ライフステージに応じたスポーツ活動の奨励

### (ア) スポーツ教室の開催

期 日	内 容	参加人数
令和4年9月25日	初心者限定！親子でトライパークゴルフ	14人
令和4年10月2日	初心者限定！できると楽しいパークゴルフ	13人
令和4年10月30日		13人
令和4年11月8日	スポーツ教室（運動能力向上）/小学5年～	56人
令和4年11月14日	6年生	46人
令和4年12月11日	ソフトテニス教室 講師：トヨタ自動車東日本ソフトテニス部	19人

パークゴルフ教室は、パークゴルフの底辺拡大を目的に令和2年度から初心者限定で開催している。今後も村民等からの要望も踏まえ、小・中学生のスポーツ技術の向上及び村内におけるスポーツの普及に努めていく。

### ③自主的スポーツクラブ・団体の育成と指導

#### (ア) 村内のスポーツ団体

団体名	加盟団体数	会員数	備考
大衡村スポーツ協会	10団体	253人	各種大会の開催 村民グラウンドゴルフ 大会/新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 中止
大衡村スポーツ少年団	6団体	75人	野球・バレー男女・剣 道・卓球・ドッジボール

国や県が推進する総合型スポーツクラブと運動部活動の地域移行については、本村での導入と設立に向けて協議会の設置や研修会、説明会等を開催し、移行検討期間中は十分に精査・検討し進めていく。

### ④体育施設の整備充実

#### (ア) 社会体育施設利用状況

施設名	利用日数	団体数	利用者数
村民体育館	330日	延べ605団体	延べ8,615人
楽天イーグルス大衡球場 (西部球場)	103日	延べ111団体	延べ4,954人
多目的運動広場	14日	延べ14団体	延べ689人
ときわ台多目的運動広場	262日	1団体	延べ27,990人
屋内運動場	84日	延べ96団体	延べ1,868人
村民プール	0日	—	—
大森プール	0日	—	—

社会体育施設の利用状況は、屋内運動場が前年度より利用者数が減少となった。

楽天イーグルス大衡球場（西部球場）と多目的運動広場については、指定管理者である株式会社万葉まちづくりセンターにおいて適正な維持管理・運営を実施している。

また、その他の施設については、教育委員会において定期的に巡回等を実施し、破損個所の小破修理等を行い、良好な体育施設の提供に努めている。

### (イ) 学校施設開放状況

施設名	利用日数	団体数	利用者数
大衡小学校体育館	190日	延べ285団体	7,009人
大衡小学校グラウンド	66日	延べ89団体	1,923人

学校施設の利用者数は前年度より増加となっている。2か月に1回(計6回)、学校開放運営委員会を開催し、学校体育施設の利用について調整を図っている。

## V 点検評価に対する学識経験者の意見

### 1 意見の提出にあたって

教育基本法の改正や地方教育行政に関する法令等の改正により、学校教育をはじめ教育行政は大きく変わりつつある。こうした中、大衡村教育委員会が、令和4年度の事務の管理及び執行状況について、自ら点検及び評価を行った結果に対し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有するものとして教育委員会から依頼を受け、大衡村における教育行政の現状や課題、今後の対応、方向性等について意見を提出するものである。

### 2 点検評価に対する意見

#### (1) 教育委員会活動について

○「大衡塾」の継続に関しては、大変ありがたいことと思います。今年の実績の内容を踏まえ、次年度以降もより良いものとしていくことを期待します。受講生の具体的な学力テスト等の向上結果等もあれば相乗効果につながると思います。

○大衡塾の対象を小3、4～中3までにしてはどうか。

○教育委員会の皆様には、村の教育行政の中核を担っていただき、また、我々ではなかなか目の行き届かない部分まで小学校・中学校とよく連携をと子供たちのために頑張っていただいていると思い、心より感謝いたします。頂いた資料を拝見するとかなり多くの協議を重ねたうえで教育行政に尽力していることが解り、住民の一人として心より感謝いたします。公営塾「大衡塾」については、とても良い仕組みだと思っております。以前に、運営上の課題もあったかに聞いておりましたが、評価表を見る限りは問題無く活動しているものと判断しますが、この活動成果が出て来るのが楽しみです。



## (2) 義務教育について

### ①小学校

- 大前提として、児童全員にしっかり寄り添い、教育を遂行してもらいたいです。端末機器を有効に利用した教育内容の充実も良いことですが、一人一人としっかり目を見て、聞いて、話し合い、活発な授業の時間がいつまでも軸であることは変わらないのでよろしくお願いします。
- 学習指導については理解できる生徒が興味を持ち、自主性が養われていることに期待。体力向上につながる指導があった方が良い。
- 小学校の義務教育についてですが、前任の校長先生と先生方のご努力により、不安定な時は概ね乗り越えたかに見受けられます。新たに赴任していらっしゃる校長先生にも引き続き大変かとは存じますが、元PTA会長として、また、大衡小学校評議員としてもご期待申し上げます。ただ、一縷の不安は、近年の大衡村は工業団地の進出・団地造成に伴う新しい人々の流入により、以前とは違い、多様な考え方もあるし、子供たち自体も非常にデリケートな面を持っているかで見られるところで、学校側に少し乱れが生じるとそこで大きく揺れてしまいがちなのが今の大衡小学校かと感じているところです。なかなか難しい運営とは思いますが、よろしくお願いいたします。

### ②中学校

- 小学校から中学校への生徒一人一人について申し送りを徹底してもらおう、引き続きよろしくお願いします。部活動と授業が主体となるので、それを続けていくための健康面を踏まえたサポートも必要と思います。次のステージに向けた目的・目標を立てることへの背中を押す、生徒への育成を今後も期待します。
- 一人一人の個性・特性があります。興味も頑張り方も各々違います。目標が定まっている生徒、そうでない生徒、もちろん存在します。授業力向上も理解できますが、授業以外の活動を通し、教えることで興味を持ち、学ぶことの意味、向上心を養うことも必要ではないか。
- 中学校の義務教育については、資料を確認する限りでは子供たちのため、ICTやALTの活用等多くの活動を実施していただき、また、先生方も指導力向上のための研修などで研鑽しているとのことなので、今後へ期待したいと思います。また、小・中連携での授業について一部記載がありましたが、以前から一村に一校ずつしかないのに、なぜ、小・中学校でもっと連携して、9年間で子供の育成ができないのかと大変残念に思っていたところ

だったので、連携が始まったことに心より感謝申し上げますが、記載部分だけではまだまだ足りないと思いますので、今後の成り行きを見守りたいと思います。今後も継続的に学力向上のために指導していただき、今後の大衡村の将来を託せる人材の育成に教育委員会と学校が力を合わせて頑張っていたきたいと思います。

### (3) 学校給食について

- 村内だけでなく、村外の学校へ通う児童生徒についても同様の措置を取っていただき、大変感謝しております。今後は新たなセンターが整備され、更に充実した給食の提供ができるようになるとのこと。食育は生活の基軸なので、今後も引き続き、よろしくお願いいたします。
- 生徒の評価はすこぶる高いようです。新給食センターになっても変わらないことを期待したい。
- 学校給食については、非常に良い制度の内容であると思いますし、県内においてもなかなか他ではまねできない制度だと思っています。今後も可能な限り継続していただければ、現在の多様な家庭環境の補助的な役割も担えると考えます。残食率への配慮が見られますが、運動量が少なくなれば、食べなくなるのは当たり前のことなので、給食を出す側の問題ではなくて、それを受け入れる側（それは子供達であり、学校側）に問題があると思います。

### (4) おおひら子どもの心のケアハウス「ききょうルーム」について

- 令和4年度の実績日数を見てみると、改めて「ききょうルーム」の必要性があると感じました。このサポートは、引き続き継続していってもらえるとともに、実際の生徒を通じて改めて分かったこと、気付いたことを今後の運営にフィードバックしてもらいたいと思います。
- ききょうルームが周知されていないように感じる。登校支援、目的意義が不明瞭。ソーシャルワーカーへの相談窓口があるということ（ききょうルームの活用窓口）の周知が不足しているのではないか。
- 上記について、今回も内容を拝見させていただき、相変わらずケアハウスの利用が多いことに驚きます。昔から考えれば、ここまでしてもらえる子供たちは幸せと考えられますが、逆を言えばそこまで支援が必要になることが問題です。今の日本を表す現象なのかもしれませんが、教育の多様性が求められる時代になってしまったのかもしれませんが、運営側は大変ご苦労されていることと思います。

#### (5) 生涯学習について

- 生涯学習の内容等については、実際のアンケート調査の結果を基に、学習機会の支援を行ってきたとのこと。こちらについては、引き続き、次年度以降もよろしくお祈いします。家庭学習支援チーム「むらっこ」さんにも、引き続きご協力をいただけるようよろしくお祈いします。
- 今後も多様化するニーズに対応力をもって努めていただきたい。
- 生涯学習については、私が知る限りでも多岐に渡り、様々な活動があり、とても充実した活動が展開されていると思います。今後、さらに充実した活動が行われることを願います。

#### (6) 社会教育について

- 新型コロナウイルスについては、5類相当に扱いが変わったこともあり、平常時の内容に教育内容も変わりつつあるので、これからは更に回数を増やすなどして機会を増やすことも考えてみてはいかがでしょうか。
- コロナ禍での活動で縮小・中止が目立つ。以前の規模・内容に戻すには時間がかかることだが、地域事業等は粘り強く継続させてほしい。
- 社会教育については、私も立場上、いろいろな会議や講演会などに参加させていただき機会も多く、スポーツ少年団活動やPTAの諸活動の際に非常に参考になると思っております。ただ、参加者が少なかったりすることもあると思いますが、現在の世情などを考慮していただき、保護者の学ぶ機会を継続していただければ幸いです。ただ、ジュニアリーダー研修会の参加人数が少ないのがとても気になりますが、保護者も子供も忙しくしているために、大事な経験が損なわれているのではないかと心配になります。

#### (7) 地域文化について

- 芸術文化の今後の推進としては軸となる「大衡村ふるさと美術館」と「昭和万葉の森」の有効利用を考えてもらいたいです。小学校、中学校の授業での有効利用や村民や他地域の方にさらに来ていただける内容を引き続き検討の上、よろしくお祈いします。
- 地元出身の方の企画展を行うなどしていることについては評価する。予算として厳しいのかもしれないが美術館の老朽化が目立つ。展示品や企画展示されるものを不備なく返せるよう屋上防水の改修等そろそろ着手した方が良いのではないかと。
- 地域文化については、地域の伝統芸能や芸術など維持するのは大変なことだと思いますが、継続して守っていただきたいと思ひます。

(8) 生涯スポーツについて

- 今年度の村民スポーツ祭の内容（10月実施予定）を踏まえて、次年度の内容の充実に生かしてもらうようお願いします。
- 各団体の意識差があるように感じる。一度、各団体の指導者協議が必要なのではないか。
- 生涯スポーツについては、コロナの影響がまだ残る中での活動ではあったものの、今年からほぼ再開した活動が活発になっていくものと思います。今後とも継続していただけることを望みます。

(9) その他

- 今後、ますます、少子化となり大衡村も人口が減少していくことは、まず、間違いないことだと思います。そこで、大衡村で学んだ子供達がいずれ進学等でここを離れたとしても、戻ってきてこの大衡に住んで、改めて家庭を持つサイクルの一助となることを多方面との協同を保ちながら期待したいと思います。

令和4年度	大衡小学校PTA会長	遠藤 至
”	大衡中学校PTA会長	奥山 崇
”	大衡村社会教育委員	松川 利守